

## 平等院庭園

平等院の庭園は、平安時代（794～1185年）に栄えた浄土庭園の最も優れた例である。この庭園スタイルの目標は、地上の極楽西方浄土（仏教の浄土）を再現することだった。鳳凰堂やその他の建物を含む複合施設のすべての要素と、阿字池、宇治川、山を背景にした自然環境が組み合わさって、貴族がとても熱望していた平安時代の西方極楽浄土の完璧な世界を作り出している。庭はまた、人間と自然の真の関係の理想的な表現である。

このような庭園は、世界最古の園芸マニュアル「作庭記」の理想的な庭園と言われている。このマニュアルによれば、藤原頼道の次男である橘俊綱が1052年に別荘を寺院に変えたという。橘俊綱がマニュアルを書く際にモデルとして平等院を使用したかどうかは定かではないが、庭と建物は地上の西方極楽浄土を作りたいという願望の非常に明確な現れである。庭園は、平安時代に完成した最古の浄土庭園で、国の史跡・景勝地に指定されている。